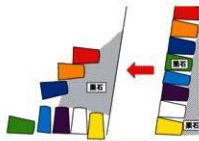


ここがわかった! 戌亥櫓周辺崩落石材回収調査成果

令和5年(2023)7月から令和6年(2024)2月にかけて、西出丸の戌亥櫓周辺石垣では、約3,000石の築石の回収を行いました。

築石1点1点を測量しながら回収していった結果、この石垣も他の石垣と同様に栗石が沈み込んで石垣が中程から折れるように崩落する、いわゆる「く」の字状の崩落パターンを確認しました。

今後は石材の崩落地点や写真などを基に崩落前に積まれていた位置の特定を行い、石垣の復旧設計が進行する予定です。



石材回収前の戌亥櫓周辺石垣



石材回収が完了した戌亥櫓周辺石垣

熊本地震における熊本城の被災状況

熊本城全体の石垣：973箇所、約79,000㎡
特別史跡熊本城跡の土地面積：約578,000㎡

平成28年4月16日 1時25分「本震 M7.3」

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
復元建造物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落・影らみ・露み 517面 (うち崩落50箇所、229面)	約23,600㎡(全体の29.9%) (うち崩落約8,200㎡(全体の10.4%))
地盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345㎡
便施設股・管理施設	26棟	屋根・壁破損など



被災直後の戌亥櫓と崩落した石垣

「復興熊本城Vol.7飯丸石垣篇」

平成28年(2016)の熊本地震によって甚大な被害を受けた熊本城の記録を定期的に発行しています。

Vol.7「飯丸石垣篇」では、「奇跡の一本石垣」として全国的に報道された飯丸五層櫓石垣について、歴史と地震被害復旧のあゆみを収録しました。

現在、城内施設をはじめ熊本城内の書店でも発売中です。



熊本城見学の前に立ち寄りた!

熊本城の魅力を感じられるミュージアム

江戸時代と震災前の熊本城の姿を再現映像で臨場感たっぷり体験できる大迫力の「熊本城VR」をはじめ、「熊本城被災・復旧プロジェクトシミュレーション」や「被災直後の熊本城内部の映像」など、熊本城の必見情報が盛り沢山! お見逃しをあとせてぜひご覧ください。

料金:入館料(高校生以上300円、小・中学生100円)

お得 共通入園券がオススメです!

2館共通入園券(熊本城・わくわく館) (高校生以上850円、小・中学生300円)
3館共通入園券(熊本城・わくわく館・熊本博物館) (高校生以上1,100円、小・中学生400円)



熊本博物館夏季特別展「旅するタネ」

会期:令和6年(2024)7月13日(土)~9月1日(日)
場所:熊本博物館 特別展示室1・2・3

一度種付くと移動する術をもたない植物が、唯一移動できるのが「タネ」の時期。風によって飛んで行ったり、水の流れて遠くへ運ばれたり、鳥や翼付きの動物、動物の糞を利用して移動したり。タネは自然の力や動物の行動を巧みに利用して、旅に出ます。その旅を成功させるために、かたかたを工夫したり、鮮やかな色をいたりするものも多く、驚きのワザや仕掛けをたくさんもっています。本展では、身近なところで見られる草花や樹木の種子・果実、海外の珍しい貴重な種子、さらには種子の化石などを展示し、植物の種子散布について紹介します。いのちをつなぐため、賢く生き抜く植物の妙をお楽しみください。

熊本城

~復興に向けて~

令和6年度

春夏号



海開の桜と土塁を渡る風景



◀公開時間、範囲の詳細やイベント情報について、最新情報は熊本城特別公開ホームページをご覧ください。

発掘調査で発見! 備前堀石垣の根石



北側の飯田丸-要人櫓石垣は根石の下に丸い石を敷いています。



南側の石垣は掘り込みの處に直接根石を据えています。



南西から見た発掘調査中の備前堀(写真奥は飯田丸五階櫓石垣)



調査成果説明会当日の様子(令和6年2月10日)

備前堀は、行幸坂の東側にある水堀です。この堀に面した石垣は、平成28年熊本地震で南側に大きく崩れました。今後この石垣を復旧する際の基礎資料を得るために、令和6年(2024)1・2月に発掘調査を行いました。発掘調査はまず堀の水を全て抜いた上で、石垣下の4か所を調査しました。その結果、今回確認した石垣は一樣に地面を一段低く掘り下げて根石(石垣下底の石)を据えていることが判明しました。しかし、場所によっては根石の据え方に差が見られました。北側にある飯田丸-要人櫓石垣では、掘り下げた底に人の頭程の大きさの石を敷き、その上に根石を据えていました。それに対して、南側の一段低い石垣では掘り下げた地面の上に直接根石を据えていました。このように隣接する石垣で築き方に違いが見られる理由ははっきりしませんが、石垣の高さや根石を据える地面の状況に応じた当時の人々の工夫がみられます。

2月10日(土)には現地で開催成果説明会を開催し、およそ500名の方に調査成果と復旧が完了した飯田丸五階櫓石垣とこれから復旧する備前堀東側石垣をご覧いただきました。当日の説明資料は、右の二次元コードからご覧になれます。



重要文化財 宇土櫓(五階櫓)の解体が始まりました!

令和4年(2022)10月にスタートした解体保存工事は、令和6年(2024)1月に素屋根の設置が完了し、本格的な解体作業に着手しました。解体作業は檜最上階の屋根瓦から始め、瓦の葺き方や瓦下の葺土の厚みなどを確認しながら瓦を1枚1枚丁寧に取り外していきます。外した瓦は1枚1枚木箱で叩いて再使用が可能な確認したり、昔の刻印がないかを調査したりします。また、瓦の大きさにはばつつきがあるため大きさや形状によって選別を行います。屋根瓦解体作業では青銅製の鯨も外しました。この鯨は、昭和2年(1927)の解体修理の際に宇土櫓に載せられたようですが、鯨自体の由来はわかっていません。瓦を外し終えらると下に葺土、土居置きを撤去し、野地板が現れます。野地板は全てに番付札を取り付けた後、外しました。

今後は内部の壁の撤去に進み、軸組は残して下の階へ作業を移していきます。



互調査の様子



約100年開宇土櫓を見守った鯨



野地板が取り外された宇土櫓最上階

飯田丸五階櫓石垣完全復旧!!

令和6年(2024)1月に飯田丸五階櫓石垣の復旧が完了しました。この石垣は、南面と東面が大きく崩落し、「奇跡の一本石垣」と呼ばれた石垣でした。石垣の復旧工事は、文化財としての価値を棄損することのないよう、適宜発掘調査等を行いながら、7年間、丁寧に進めてきました。

令和7年度から飯田丸五階櫓の建物の復旧工事が始まる予定です。



熊本地震後の飯田丸五階櫓石垣



復旧が完了した飯田丸五階櫓石垣



復旧が完了した天高くそびえる飯田丸五階櫓石垣